

# 世代を越えた人の和と 地の利を活かす里づくり

# 和地

●校区自己紹介⑱

## 基礎データ

- 【人口】1,383人(H21.12.31現在)
- 【世帯】343世帯(H21.12.31現在)
- 【面積】約870ha
- 【公共施設】和地小学校・渥美最終処分場
- 【史跡】皿山古窯群
- 【主な産業】農業



●和地海岸

## 校区の概要

和地校区は、田原市の南西部に位置し、南側を太平洋遠州灘、北側を赤石山系の山々に囲まれ、東西に伸びる国道42号に沿って集落が形成されています。

海岸は、渥美半島の太平洋岸では珍しく岩場があり、他地区よりも耕地が少ない地形であることから、明治以降までは半農半漁が主な生活形態の地域でした。海・山の産物に恵まれた漁獲収益の高い村で、特に“和地わかめ”は江戸幕府に献納されたと記されています。

その後は、昭和26年の県営暖地園芸試験場の設置、昭和40年代の豊川用水通水や土地改良事業によるほ場整備、構造改善事業「和地温室団地」の建設などにより、施設園芸が飛躍的に発展を遂げました。現在も、施設園芸を中心とした、花き・メロン・トマトなどの栽培が盛んで、昭和49年には、当時の皇太子と皇太子妃(現天皇・皇后両陛下)が、電照菊栽培ご視察のため温室団地に行啓されています。



●温室団地

## ふれあい活動

地域コミュニティの拠点施設である市民館は、カラオケ・手芸・囲碁・詩舞・シニア体操など各種の催しに利用されています。毎年11月の市民館まつりでは、老人クラブによる竹馬づくりなど多彩な催しを行い、老若男女多くの校区民がふれあいときずなを深める機会となっています。



●市民館まつり

また、ビーチボールバレー大会、グラウンドゴルフ大会などの各種スポーツ大会や、カラオケ大会・敬老会などの各種行事にも多くの校区民が積極的に参加し、地域の連帯感の向上につながっています。

## 里山づくり

和地小学校の北にある山は「裏山」の愛称で呼ばれ、昔から里山として整備が行われ、愛されてきました。現在も、和地小学校の児童とPTAが中心となり、自生するササユリを保護する「ササユリの里」

づくりや「実のなる木」の植栽が行われ、豊かな自然を生かした里山づくりが進められています。



●里山づくり

## 美化活動

校区の基幹道路である国道42号沿いでは、既設花壇の整備のほか、夏から秋にかけてはコスモスを、冬から春にかけては菜の花を畑に植えて景観形成に努めています。さまざまな花が観光客の目を楽しませているとともに、コスモスの種まきには和地小学校の児童も参加するなど、地域の子どもの学習の場にもなっています。



●菜の花畑